

内部文書 討議資料



ようすけ通信

Yosuke

News

[発行] 上野ようすけ連合後援会 帯広市西6条南16丁目11 tel 0155-67-6725 fax 0155-23-2120

<http://www.uenoyosuke.net> mail : info@uenoyosuke.net

人口減少対策は二つの視点で取り組むべき

上野 ようすけ

■帯広圏も減少

地元紙でも掲載されていましたが、昨年、十勝は転入人口より転出人口が705人多い「人口流出」の状況が確認されました。これまでは帯広圏(帯広、音更、幕別、芽室の1市3町)が人口流出の防波堤になっていたのですが、昨年はその帯広圏も転出の方が多い事態となつてしまいました。

高齢化が進む中での人口減少は、その地域を支える労働人口が減っていくことを意味し、経済の停滞や生活水準の低下を招きかねません。政治は今度こそ人口減少対策に対し効果的な対策を出さなければならない状況となっているわけですが、私はこの問題については、二つの視点に分けて取り組むべきではないか、と考えています。

■減少幅そのものを小さくする努力を

まず一つ目は、人口の減少幅をどう小さくしていくか、という視点です。理想はあくまでも人口増への道

筋をつけることですが、子育て等の家族観は時代とともに変化していることも事実であり、かつ、減少から増加への道のりは長い期間が必要になります。そこで、まずは、減少幅を小さくするための真摯な取り組みが重要です。

この視点での政策は、子育てをしやすい環境作りなど出生率アップにつながる政策と、一度住んだ地域から人が離れないようにする定住化支援、そして、転出した人が戻って来るためのUターン、移住(Iターン)の推進などが挙げられます。

どれも重要な政策課題ですが、私は今後は、大学入学時に地元を離れた学生が、卒業後に地元に戻ってくることを条件に給付する「条件付き奨学金制度」の充実が大切であると考えています。香川県では奨学金を受けた学生が県内で就職した場合に返済を一部免除する制度があり、高い評価を得ているようです。

十勝の場合、大学進学となるといったん十勝を離れるケースが極めて多いのが実情です。そのため、この対象を「道内大学へ進学↓道内で就職」に限らず、「道外大学へ進学↓道内で就職」の場合にも奨学金返済義